



防衛医大病院広報誌 第12号 2023年9月発行  
企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター  
発行責任者 塩谷 彰浩  
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2  
TEL 04-2995-1511 (代表)



# まもる 防衛医大【護】通信

## 教授就任挨拶 & 診療科紹介

### 救急部

### 清住 哲郎

令和5年4月1日付、救急部長／救命救急センター長を拝命いたしました、清住（きよずみ）と申します。3月までは海上自衛隊の医官として、本学の防衛医学講座におりました。兵庫県出身、所沢在住20年目（通算）です。よろしくお願いいたします。



防衛医大病院救急部は、昭和、平成、令和と、日本における救急医療の黎明期から現在まで、日本救急医学会指導医指定施設（認定 No.13）、救急科専門医研修施設、防衛省で唯一の救命救急センター（平成4年指定）として、その役割を担って参りました。地元消防からの依頼に応え、外傷、熱傷、中毒、心肺停止、意識障害、呼吸不全、ショックなど、生命の危機に瀕した救急患者さんを24時間態勢で受け入れ、院内各科と連携して治療にあたるのが私たちの使命ですが、埼玉西部消防局の救急車に同乗しての現場出動（ドクターカー）、DMAT（災害時医療支援チーム）活動への参画、新型コロナウイルス感染症流行の際には、ダイヤモンドプリンセス号への派遣、コロナ病棟における重症患者診療など、多岐にわたる活動を行っております。また地域医療機関からの転院搬送、院内での急変や全身管理に関する各科からのコンサルテーションに対応し、必要な集中治療を実施すること、救急関連の様々なセミナーや講習会を学内外の皆様と行うことも、私たちの領域です。病院の外からも中からも頼っていただける、そのような救急部でありたいと思っております。

現在、救急部には日本救急医学会認定の指導医が5名、救急科専門医8名、外傷専門医3名、熱傷専門医2名、外科専門医2名、整形外科専門医2名、脳神経外科専門医1名、内科専門医1名、社会医学系指導医2名、医学教育専門家1名が在籍（重複あり、非常勤医師を含む）しています。今後も救急部は、外傷・救急・集中治療のプロフェッショナル集団として、学生を含むあらゆる医療者に対して、外傷 / 救急の適切な教育機会を提供すると共に、引き続き埼玉県西部地区の救急医療に貢献し、地域の、防衛省自衛隊の、日本の、そして世界の救急医学をリードできるよう、精進して参ります。どうかよろしくお願いいたします。



地域医療連携検討会を6月27日（火）に開催いたしました。

テーマ『救急医療（今後の展望・医療連携含む）』

## 1 「当院の救急医療体制について」

防衛医科大学校病院 救急部 教授 清住 哲郎 先生

当院への救急ベッドの運用や連絡方法について

救命センター4床、一般（後方）ベッド11床で運用

緊急の転院調整：

平日昼間 代表→〇〇科地域医療連携担当医 / 地域医療連携センター

生命危機が迫っている場合は、救急部（救命）当直へ

夜間・休日 診療科が明確→当該科当直（一部オンコール体制あり）

診療科が明確でない内科→内科一般当直、明確でない→救急（一般）当直

命の危機が迫っている→救急（救命）当直への連絡を下さい。

高度医療を必要とする患者を受け入れる為にも軽症や安定した患者を可能な限り速やかに地域での受け入れにご協力頂きたい。事例の提示を行いつつ、救急のACPについて説明あり。



## 2 「脳外科疾患に対する救急医療」

防衛医科大学校病院 脳神経外科 准教授 豊岡 輝繁 先生

脳卒中の病型について --- 脳卒中（脳出血・くも膜下出血）から虚血性＝脳梗塞。その割合は、50年前と比べ、脳卒中の77%から脳梗塞の70%と占める割合に変化。

脳塞栓症の治療 --- 脳梗塞の再開通治療も t-PA 静注療法＋機械的血栓回収療法（2021年の脳卒中治療ガイドラインより早期治療が望ましい。適応は拡大中）

脳卒中の治療 --- 低侵襲治療、神経内視鏡下血腫除去、脳動脈瘤に対しては、脳血管内治療＋開頭手術のハイブリッド手術。いずれも時間との勝負！

実際症例を提示しつつ、意識レベルやADL等改善した症例もある一方、救命出来ないケースもあり、高齢者等の加療についてはACPの普及が大切。



## 3 「在宅医からみた救急医療」

ふく在宅クリニック 院長 福本 祐一 先生

救命医から在宅医への方向転換した理由

元救急医療に携わる中で、最後まで諦めない救急としての使命感と全力を尽くしても助けられないジレンマあり。また、高齢者の人生の終末期に携わる事も多く、高齢者救急の問題を改善するためにも在宅医としての穏やかな最期を提供する為に開業。

在宅医として、安心して過ごしてもらえよう寄り添った医療を提供する上でも医療・介護、家族とチームと一緒に密接に関わる事が大事。専門・高度な医療提供で予後が豊かになるケースとそうでないケースがあり、見極めた上で然るべき病院に対応を依頼。救急システム、限りある資源の有効活用も視野に入れ訪問。在宅医として安定した生活を維持させながら最期まで請け負う事を目指している。

退院カンファレンスの実施において、『病識のずれ』や『不安解消』に努める為にも退院カンファレンスを実施して欲しい。患者・家族の意向や病状、I.Cを確認したい。



## 【全体討論：救急の在り方と連携について】

座長 患者支援センター 副センター長  
大淵 康弘



\*ベッド管理上の問題として、『入口』『出口』がある。  
速やかな連携を図るには……。その日のうちに転院  
というのは難しいが速やかに連携を図るためには？

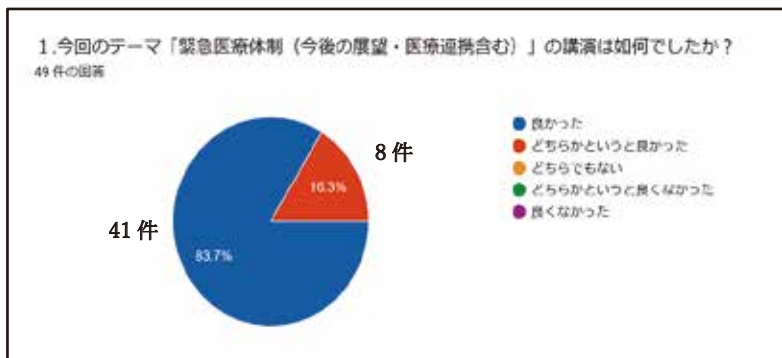
- ・救急の中でも役割分担が必要ではないか。防衛医大としての受ける基準を地域に示す等。  
それにより、地域の医療機関としては振り分けやすくなる。
- ・中核病院として、リーダーシップを発揮してもらう事に期待。
- ・入口問題としては、医師の問題や家族の問題がある。かかりつけ医の責務として、道しるべを  
示し家族に安心感を与える役割もある。いずれにせよ医師の問題や家族の協力的が必要。

\*脳外科のネットワークが構築出来ている理由→日頃から Web 会議での顔の見える連携を行っている  
ので出口問題解消が出来ている。

\*救急部から在宅というルート（退院）はあり得るか？→在宅環境を整えるのに1週間程度は時間を  
要すが可能ではある。

★患者支援センターとしても ACP の普及を図りつつ転院調整を進めて参りたいと思います

### アンケート集計結果---ご協力ありがとうございました



職種	人数
看護師	25
医師	10
ソーシャルワーカー（MSW,PSWを含む）	5
事務	4
ケアマネージャー	3
保健師	1
社会福祉士	1
臨床検査技師	1

## 【今回のテーマにおけるご意見】

- ・高齢者医療の問題について、先生方も悩んでいる事がわかり連携を深めて行きたい。
- ・防衛医大の現状と展望が理解できた。
- ・重症者や夜間の受け入れはお断りする事や当院からの転院も受け入れてもらいたいが、下り搬送も対応可能（高齢者の脱水、感染症、食欲不振など）、又 DNAR があるとより受けやすい。
- ・手術の適応がないと退院させられ、自宅で身動きが取れなくなるケースもあり（当院に限らず）、慌ててショートステイを探す事もあった。協力体制で対応してもらえると良い。
- ・病院と地域包括支援センターとしての生活支援、どちらの立場も理解出来る。地域支援に励みたい。
- ・在宅からみた救急医療について同じ思いである。先日も看取りの方の救急搬送をした事例があった。自宅で安心して穏やかに過ごせる最期を迎えるためにも患者・家族の教育が必要不可欠であると思う。どのような指導をしているか振り返る予定である。

## 【今後取り上げて欲しいテーマ】

- ・臨床教育における地域医療の役割
- ・働き方改革
- ・地域防災
- ・精神科による未分化健康問題
- ・認知症
- ・敗血症
- ・炎症性腸疾患
- ・心不全
- ・がん診断
- ・遠隔診療 等



## 病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成する

## 基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を追求する
- 4 地域の中核として救急医療を追求する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対応能力の向上に努める
- 7 使命感をもち、優れた臨床能力を有する医官・看護官等を育成し、自衛隊医療に貢献する

## 【初診予約についてお願い】



※QRコードを読み取り、「初診予約受付のご案内」を参照ください

当院の精神科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせて頂いております。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。

## \* お知らせ \*

患者支援センターでは一般的な相談以外にもがん相談センター・脳卒中相談窓口としてのご相談を承っております。是非ご活用下さい。

- ・退院後の療養先として、転院支援、退院支援、在宅療養支援
- ・支払いや入院費等、経済的不安への支援
- ・がん相談支援センターとして、がんに関する一般的な情報、がん患者サロンの情報、ホスピス、緩和ケア病棟についての相談、治療と仕事の両立、仕事・学業継続の相談
- ・脳卒中相談窓口として脳卒中の関する相談

事前予約を基本とさせて頂いているため、できるだけご予約を御願致します！

## 脳卒中相談窓口

当院患者支援センターでは「脳卒中相談窓口」を設置し、脳卒中に関する様々な相談支援を行っておりますので、お気軽にご相談下さい。

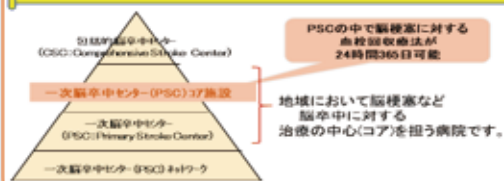
- ・脳卒中の予防・治療・後遺症について
- ・脳卒中の医療や介護について
- ・転院や退院後の生活について
- ・経済的な問題や仕事に関して



→問題解決に向けて、専門スタッフが御一緒にお手伝いさせていただきます。

まずは、担当医師にお声がけください。

当院は「一次脳卒中センター（PSC）コア施設」の認定を受けています



【脳卒中相談窓口】  
患者支援センター 1階外来西棟通路  
04-2995-1511（代表）内線6123～6126

## 医療連携の連絡先

### 地域医療連携センター

初診予約、緊急入院・受診、  
セカンドオピニオン、病状紹介等  
TEL：04-2995-1511 内線3043・3882

### 患者支援センター

退院調整、在宅調整、医療福祉相談、  
がん患者相談、脳卒中相談等  
TEL：04-2995-1511 内線6123～6126